

テーマ

現状の課題・問題

課題別の技術検討メニュー

検討方針

1 データ整備

都市計画データ整備の効率化／高度化

課題1-① 都市計画データ整備上の課題

- ① データ整備のコストが大（航空測量等）
- ② 更新周期が長く、まちの変化を捉え切れない。

課題1-② 都市計画データの標準表現様式

- ・市町村ごとに表現様式が統一化されておらずオープン化の際に広域や都市間比較が困難

課題1-③ 「都市計画データ標準製品仕様書」の技術的な検討及び整備手順の確認

- ・CityGMLによる納品イメージの共有

■技術検討 1-①

外部データ等の活用による都市計画データ整備の効率化・高度化に向けたケーススタディ

■技術検討 1-②

都市計画データの標準描画仕様の検討

■技術検討 1-③

都市計画標準仕様に準拠したデータ試作

■庁内連携による、データ整備の効率化・高度化

- ・課税部局データ・建築確認申請データを活用した都市計画データ整備の効率化(費用低減)及び高度化(精度UP・短周期化)の事例・スキーム・効果を整理

■都市計画決定情報・都市計画基礎調査標準描画仕様

- ・都市計画決定情報／都市計画基礎調査データの図化のための線の種類、太さ、色、凡例等の標準仕様を提示

■CityGMLによる都市計画基本図／都市計画基礎調査／都市計画決定データの試作と仕様の検証

- ・標準製品仕様に準拠した都市計画データのメリット確認

2 データ利活用

多分野連携と利活用を見据えた都市計画データのあり方検討

課題2-① 土地利用ポリゴンの定義が市町村ごとで異なるため多様なデータ連携が困難

- ・土地利用ポリゴンの最小単位が自治体ごとに異なるため不動産IDや他データの連携に課題

課題2-② 法定図書としての精度管理や表現課題

- ・地図の縮尺による境界線の精度
- ・電磁データ等による「縦覧」の位置づけが不明確

課題2-③ 2Dでは把握が難しい高さ規制情報等の都市計画情報の可視化

■技術検討 2-①

「不動産ID」との連携を見据えた土地利用ポリゴンの作成手法の検討

■技術検討2-②a

「法定図書」のオンライン縦覧に向けた技術的・運用上の課題の検討

■技術検討2-②b

「都市計画決定データ」の3D表示

■多様な土地利用ポリゴンの作成パターンに対するID連携のための課題と最適な作成方法について検討

- ・土地利用ポリゴンの標準化を見据えた検討
- 不動産IDと都市計画データを連携したUCの検討

■運営上の課題への対応

- ・「法定図書」のオンライン縦覧の法的根拠等を明確に記載

■技術的課題への対応

- ・WebGIS上での境界線の表示方法等の検討

■3D都市モデルと都市計画規制、建築基準

- ・容積率／各種斜線規制等の個別土地・建物にかかる規制情報の3次元可視化のための技術検討及び有用性の確認

3 オープン化

都市計画決定情報のオープンデータ化

課題3 都市計画決定情報のオープンデータ化リスク

- ・他のデータとの紐づけによる個人情報保護上のリスク（建物・土地データと規制情報等）
- ・情報公開による新たな紛争の顕在化（境界線等）

■技術検討 3

「都市計画決定情報」の二次利用時のリスクとルールの検討

■都市計画決定データのオープンデータ化における留意点の整理

- ・免責条項等の二次利用のルール等